

## 御国の福音

### 第4回：御国とダビデ契約<sup>1</sup>

#### 目次

はじめに p. 2

- A. 前回の復習
- B. 今回の概要

I. 王制への道のり p. 3

- A. ヨシュア記
- B. 士師記
- C. ルツ記
- D. ハンナの祈り (Iサム 2:1-10)

II. 王制の誕生 p. 6

- A. サウルの選び
- B. ダビデの選び

III. ダビデ契約 p. 8

- A. 王に関する預言の成就の始まり
- B. ダビデ契約の内容
- C. ダビデ契約の成就

IV. 王国の崩壊 p. 10

- A. ソロモンの治世
- B. 南北分裂
- C. アッシリア捕囚とバビロン捕囚

ヨシュア記～歴代誌第二における御国の計画のまとめ p. 13

## はじめに

### A. 前回の復習

1. 「神の御国／王国」(the kingdom of God) の計画について学んでいる。御国の計画は、聖書を貫く軸である。
  
2. 出エジプト記～申命記における御国の計画
  - (1) 神はモーセを通してイスラエルをエジプトから連れ出された。イスラエルは諸国民に祝福をもたらすための「祭司の王国」として召し出された。
  
  - (2) イスラエルが神への献身を表現するための枠組みとして、また彼らを異邦人から分け隔てるため、モーセ契約が与えられた。
  
  - (3) モーセ契約は、イスラエルの従順による祝福と、不従順による呪いの両方を約束していた。
  
  - (4) 神は、イスラエルが不従順により世界中に離散させられた後、救われて回復されるということを約束された。
  
  - (5) 神は、イスラエルに王制が敷かれる時のための規定をお与えになった。

### B. 今回の概要

1. モーセの死後における御国の計画（ヨシュア記）
  - (1) モーセの死後、リーダーシップは彼の従者ヨシュアに引き継がれた。
  
  - (2) ヨシュアはイスラエルを引き連れ、約束の地を征服した。
  
  - (3) モーセの死を境に、聖書の強調点は「土地の約束の成就」へと移行した。

2. 王制の誕生（士師記～サムエル記第二 6 章、歴代誌第一 10～16 章）
  - (1) ヨシュアの死後、神の代理人として民を指揮する士師たちが次々と立てられた。
  - (2) 士師たちの時代の後、サウル王が立てられ、イスラエルに王制が誕生した。
  - (3) サウルは神の前に正しく歩まず、王権はユダ族出身のダビデに与えられた。
  
3. ダビデ契約の重要性（サムエル記第二 7 章、歴代誌第一 17 章）
  - (1) ダビデには**ダビデ契約**が与えられた。
  - (2) ダビデ契約において、ダビデの血筋による永遠の王国が約束された。
  - (3) ダビデ契約では、その王国が諸国民に祝福をもたらすことも約束された。
  
4. イスラエルの不信仰（列王記第一・第二、歴代誌第一・第二）
  - (1) ダビデの息子ソロモンの時代、イスラエルは栄華を極めた。また、諸国民への祝福も成就し始めた。
  - (2) しかし、ソロモンの不信仰はイスラエル王国を南北分裂に導いた。
  - (3) 南北王国の民はどちらも不信仰な道を歩み、結果としてどちらの王国も異邦人国家（アッシリア帝国およびバビロン帝国）によって滅ぼされた。

## I. 王制への道のり

### A. ヨシュア記

#### 1. 成就し始めた土地の約束

- (1) ヨシュア記の主張のひとつは、アブラハム契約の土地の約束が、ヨシュアの時代に成就し始めたということである。

(2) しかし、イスラエルはカナン人および偶像礼拝を約束の地から完全に排除するという使命に失敗した。

(3) 結果として、約束の地の征服は完了しなかった。

2. 神はご自分の約束に誠実であるが、イスラエルの民は不従順であった。

## B. 士師記

1. 士師記は、イスラエルが約束の地において従順と不従順を繰り返していたことを詳細に語っている。

(1) 士師記では、イスラエルの「平安→反抗→裁き→悔い改め→回復」というパターンが繰り返されている<sup>2</sup>。

- a) イスラエルが不従順の故に裁かれ、苦難に陥る。
- b) 苦難の中で悔い改め、神に助けを叫び求める。
- c) 士師が起こされ、苦難から解放される。
- d) イスラエルは信仰の中で平安を得る。
- e) 次の世代は信仰を継承せず、不従順の故に裁かれる。

(2) モーセ契約が約束していた「従順ゆえの祝福」と「不従順ゆえの裁き」は確かであった。

2. 士師たちの働きがあっても、イスラエルは全体としては不信仰のまま歩み続けた。

## C. ルツ記

1. ルツ記の概要

(1) イスラエルの民は不信仰だった。しかし、イスラエル人の家に嫁いだモアブ人ルツは信仰を持っていた。

(2) ルツは夫の死という悲劇を経て、神の恵みを体験し、イスラエル人オベデと再婚した。

(3) オベデとルツの家系からダビデが産まれる。

## 2. ルツ記の重要性

(1) ルツは、ダビデの先祖となった。

(2) ルツは、神による異邦人の祝福の一例となった。

(3) 異邦人ルツから生まれるダビデの子孫によって、より多くの異邦人が祝福され、アブラハム契約が成就していくことになる<sup>3</sup>。

## D. ハンナの祈り (Iサム 2:1-10)

### 1. サムエル記第一の概要

(1) サムエル記第一では、実際に士師たちの時代が終わり、王たちの時代へ移行していく様子が描かれている。

(2) 最後の士師サムエルは、神がお選びになったサウルやダビデを王として立てた。そして、士師たちの時代は終わり、王たちの時代へと移行した。

### 2. サムエルの母ハンナの祈りは、御国の計画を理解する上で重要である。

(1) サムエル記第一 2:10

**主は、はむかう者を打ち砕き、その者に天から雷鳴を響かせられます。主は地の果ての果てまでさばかれます。主が、ご自分の王に力を与え、主に油注がれた者の角を高く上げてくださいますように。**

(2) ハンナの祈りは、王への期待で締め括られる。

(3) 神のご計画は、イスラエルに王をお与えになることである。

## II. 王制の誕生

### A. サウルの選び

#### 1. 神による王制の計画

- (1) 神はイスラエルに王をお与えになることを望んでいた。
- (2) 王はユダ族から出ることが約束されていた。

#### 2. イスラエルによる王制の要求

- (1) イスラエルは、神から王が与えられる前に、自ら王を求めた（1サム 8:1-9）。
- (2) イスラエルの要求は神への信頼からではなく、不信仰から出たものだった。  
1サム 8:5b「どうか今、ほかのすべての国民のように、私たちをさばく王を立ててください。」
- (3) 問題は、王制の要求自体ではなく、彼らが「ほかのすべての国民のように」王を求めたことであつた<sup>4</sup>。
- (4) 彼らは主ご自身ではなく、人間の王に信頼を置きたがつた。したがって、彼らの要求は、主ご自身を拒絶することと同じであつた。  
1サム 8:7「**主**はサムエルに言われた。『民があなたに言うことは何であれ、それを聞き入れよ。なぜなら彼らは、あなたを拒んだのではなく、わたしが王として彼らを治めることを拒んだのだから。』」

#### 3. サウルの選びと失敗

- (1) 神は民の要求に応え、ベニヤミン族出身のサウルをお選びになった。
- (2) サムエルは神の選びを受け入れ、サウルに油を注ぎ、彼を王とした。
- (3) しかし、サウルはモーセの律法を守らず、神の御前から退けられた。

- (4) 神はユダ族出身のダビデをお選びになった。
- (5) サウルの選びと彼の失敗、そしてダビデの選びは、イスラエルの民に 2 つのことを教える視聴覚教材となった<sup>5</sup>。
  - a) 神のご計画は常に最善である。
  - b) 神よりも自分の計画を優先させようとする人の試みは、必ず失敗する。

## B. ダビデの選び

### 1. 王としての任命から実際に統治を始めるまで

- (1) サウルは神の御前から退けられたが、戦死して王座から退くことになるのは、それからしばらく後のことである。
- (2) ダビデは、サウルがまだ王であった時に選ばれた。
- (3) ダビデが油注がれてから、実際に王として国を治めるまでには時間的隔たりがあった。
- (4) イエスとの興味深い関連性
  - a) イエスはメシアとして来られ、昇天し、神の右の座に着かれた (使徒 2 章)。
  - b) 実際にメシア的王国が建てられるのは、さらに将来のことである (マタ 25:31)。

### 2. 王制の確立

- (1) ダビデは王となってエルサレムを獲得し、イスラエルの宗教的・政治的首都として定めた (II サム 5:5-10)。
- (2) ダビデは自分の時代にイスラエルの主な外敵を攻略し、平和な状態で王座を息子ソロモンに引き継いだ。
- (3) ここにおいて、士師たちの時代から王制への移行は完了した<sup>6</sup>。

### III. ダビデ契約

サムエル記第二 7:12-16

<sup>12</sup>あなた[ダビデ]の日数が満ち、あなたが先祖とともに眠りにつくとき、わたし[主]は、あなたの身から出る世継ぎの子をあなたの後に起こし、彼の王国を確立させる。  
<sup>13</sup>彼はわたしの名のために一つの家を建て、わたしは彼の王国の王座をとこしえまでも堅く立てる。<sup>14</sup>わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる。彼が不義を行ったときは、わたしは人の杖、人の子のむちをもって彼を懲らしめる。<sup>15</sup>しかしわたしの恵みは、わたしが、あなたの前から取り除いたサウルからそれを取り去ったように、彼から取り去られることはない。<sup>16</sup>あなたの家とあなたの王国は、あなたの前にとこしえまでも確かなものとなり、あなたの王座はとこしえまでも堅く立つ。

#### A. 王に関する預言の成就の始まり

##### 1. これまでの王に関する預言

- (1) 創世記 49:10：ユダ族から王が出る。
- (2) 民数記 24 章：イスラエルから卓越した王が出る。
- (3) 両方の箇所、王は諸国民をも治めることになるかと預言されていた。

##### 2. 以上の預言は、ダビデに「ダビデ契約」が与えられたことで、成就し始めた。

#### B. ダビデ契約の内容

##### 1. 3つの中心的約束<sup>7</sup>

- (1) 神はダビデとその子（ソロモン）の王国が確立されることを約束された。
- (2) 神はダビデの跡継ぎ（ソロモン）が神殿を建てることを約束された。
- (3) 神はダビデの王朝が永遠に確立されることを約束された。

2. ダビデ契約には異邦人諸国への祝福も含まれている。

(1) IIサム 7:19「**神**、主よ。このことがなお、あなたの御目には小さなことでしたのに、あなたはこのしもべの家にも、はるか先のことまで教えてくださいました。

**神**、主よ、これが人に対するみおしえなのでしょうか。」

(2) ダビデは、この約束が人 (*adam*) 全体に関わりのある啓示であると理解した<sup>8</sup>。

(3) ダビデの子孫から出る永遠の王の祝福は、イスラエルを超えて人類全体と関わりがある。

(4) ダビデ契約はダビデとイスラエル民族に与えられたが、イスラエルのためだけのものでもない。全人類がダビデ契約の祝福に与ることになる<sup>9</sup>。

(5) アブラハム契約に含まれていた異邦人諸国への祝福は、ダビデ契約を通して実現していく<sup>10</sup>。

### C. ダビデ契約の成就

1. ダビデ契約の中には、ソロモンにおいて成就した内容もある。

2. しかし、完全に成就するのは将来のことである。

(1) ダビデ自身は、この約束が完全に成し遂げられるのは「はるか先のこと」だと理解していた (7:19)。

(2) 天使ガブリエルは、メシアであるイエスによってダビデ契約が完全に成就するのだとマリアに告げた。

ルカ 1:32-33「その子は大いなる者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また神である主は、彼にその父ダビデの王位をお与えになります。彼はとこしえにヤコブの家を治め、その支配に終わりはありません。」

## IV. 王国の崩壊

### A. ソロモンの治世

#### 1. 歴代誌の著者の「王国」理解

- (1) 歴代誌の著者は、ダビデの王座が「イスラエルを治める**主**の王座」とであると理解していた。

Ⅰ歴 28:5 「**主**は私に多くの子を授けてくださったが、私のすべての子どもの中から、私の子ソロモンを選び、イスラエルを治める**主**の王座に就けてくださった。」

- (2) ソロモンは、ヤハウエの代理としてイスラエルを治める王として任命された。  
Ⅰ歴 29:23 「こうしてソロモンは**主**の王座に就き、父ダビデに代わって王となった。彼は栄え、全イスラエルは彼に聞き従った。」

#### 2. ソロモンの治世の初期は祝福されていた（Ⅰ列 1-10 章）。

- (1) 祝福の理由は、ソロモンの従順にある。

Ⅰ列 3:3a 「ソロモンは**主**を愛し、父ダビデの掟に歩んでいた。」

- (2) 列王記第一 4 章には、ソロモンを通してアブラハム契約が部分的に成就したことが書かれている。（ヘブル語の言葉遣いなどを見ると、これは意図的であると考えられる。）

- a) **土地の約束**の部分的成就 （→参考：創 15:18a）

4:21a 「ソロモンは、あの大河からペリシテ人の地、さらにエジプトの国境にいたる、すべての王国を支配した。」

- b) **子孫の約束**の部分的成就 （→参考：創 22:17a）

4:20a 「ユダとイスラエルの人々は海辺の砂のように多くなり、」

- c) **諸国民への祝福**の部分的成就 （→参考：創 12:3c）

4:34 「彼の知恵のうわさを聞いた世界のすべての王たちのもとから、あらゆる国の人々が、ソロモンの知恵を聞くためにやって来た。」

- d) **王が出るという約束**の部分的成就 （→参考：創 17:6c）

4:1 「こうして、ソロモン王は全イスラエルの王となった。」

- e) **約束の地における繁栄**の部分的成就 （→参考）

4:20b 「[イスラエルの民は] 食べたり飲んだりして、楽しんでいた。」

4:25「ユダとイスラエルは、ソロモンの治世中、ダンからベエル・シェバに至るまでのどこでも、それぞれ自分のぶどうの木の下や、いちじくの木の下で安心して暮らした。」

3. 後年は不従順となり、彼の死後に王国が裁かれることとなった（I列 11 章）。
  - (1) ソロモンは申命記 17:14-17 で与えられていた王に関する命令をことごとく違反した。さらに、偶像礼拝の罪をも犯した（I列 11:4-8）。  
I列 11:9-10「**主**はソロモンに怒りを発せられた。それは彼の心がイスラエルの神、**主**から離れたからである。主が二度も彼に現れ、このことについて、ほかの神々に従ってはならないと命じておられたのに、彼が**主**の命令を守らなかったからである。」
  - (2) 神は、ソロモンの死後、王国を引き裂くことを宣言された（I列 11:11-13）。

## B. 南北分裂と王国の崩壊

1. ソロモンの死後、王国は分裂した。
  - (1) 南王国ユダ：ダビデの家系の王国。ユダ部族とベニヤミン族の 2 部族のみ。
  - (2) 北王朝イスラエル：エフライム族のヤロブアムから始まった王国。ユダ、ベニヤミン以外の 10 部族から成る（主流派はエフライム族）。
2. 北王国イスラエルの崩壊
  - (1) 紀元前 931 年から 722 年までの約 210 年間続いた。19 人の王が登場したが、その誰もが神に不従順であった。
  - (2) 彼らは偶像礼拝、子供の人身供養、オカルト的行為の実践など、モーセの律法にことごとく違反した。
  - (3) モーセ契約への不従順が極まり、アッシリア帝国によって滅ぼされ、民はアッシリアへ引いて行かれた（アッシリア捕囚；II列 17:23）。

### 3. 南王国ユダの崩壊

- (1) 20人の王の内8人は名君であったが、そのほとんどは晩年に不従順になった。
- (2) 北王国よりは長く存続したが、結局は不従順が極まり、バビロン帝国によって滅ぼされ、捕囚されることとなった（Ⅱ歴36章）。

## C. 王国の終焉

### 1. モーセ契約の悲慘な成就

- (1) 神はイスラエルの不従順にも関わらず、ダビデ王を立て、ダビデ契約をお与えになり、アブラハム契約に忠実であった。
- (2) しかし、イスラエルは不従順であり続け、結果的には「不従順による約束の地からの追放」というモーセ契約の呪いが成就してしまった。
- (3) 出エジプト（解放）から始まった歴史は、バビロン捕囚（束縛）で終わった<sup>11</sup>。

### 2. 恵みの要素

- (1) 列王記第二は、ユダの王エホヤキンが捕囚から37年目に牢獄から出され、王と共に食卓に着くようになったという記述で終わっている（25:27-30）。ここでは、イスラエル民族の将来に微かな希望があることが示唆されている<sup>12</sup>。
- (2) 王国の南北分裂後、民も王も不従順であった時代、多くの預言者たちが立てられた。彼らはレビ記や申命記に書かれていた裁きと同時に、裁きの後の回復も預言した。
- (3) 申命記30:1-10で預言されていた通り、不従順故の裁きは成就した。したがって、将来のイスラエルの霊的・物質的回復もまた成就するという希望がある。

## ヨシュア記～歴代誌第二における御国の計画のまとめ

1. 神は、イスラエルが大いなる国民となり、王国となることを計画しておられた。その計画は、ヨシュアの指導下でイスラエルがカナンの地を獲得することにより進展した。
2. イスラエルは神への不従順の故に、カナン人と彼らの影響を完全に排除するという使命を果たさなかった。このことは、後にイスラエルの王国にとって問題をもたらした。
3. イスラエルには最初の王サウルが与えられた。しかし、イスラエルが王を要求したのは、彼らが神を拒否したからであった。
4. 神はサウルを退けられ、ユダ族出身のダビデをイスラエル全体の王としてお選びになった。
5. ダビデには契約（ダビデ契約）が与えられた。この契約は、ダビデの子孫に永遠の王朝を約束するものであり、イスラエルと諸国民の両方に祝福をもたらすものである。
6. イスラエル王国はダビデの子ソロモン王の時代に栄華を極めた。しかし、ソロモンは神への不従順により、国が崩壊するきっかけを作ってしまった。
7. イスラエル王国は、北王国イスラエルと南王国ユダに分裂してしまった。
8. ユダには何人か善い王が出たが、イスラエルとユダは両者ともに、全体的には神に不従順な王国であった。そして、イスラエルはアッシリアによって、ユダはバビロンによって捕囚された。
9. エホヤキンが牢から解放されたことに表されているように、捕囚の中にあっても、イスラエルには微かな希望があった。

---

<sup>1</sup> 本講義は以下のテキストに基づく。Michael J. Vlach, *He Will Reign Forever: A Biblical Theology of the Kingdom of God* (Silverton, OR: Lampion Press, 2017), 109–25.

<sup>2</sup> Arnold G. Fruchtenbaum, *The Books of Judges and Ruth*, Ariel's Bible Commentary (San Antonio, TX: Ariel Ministries, 2007), 23.

<sup>3</sup> J. Dwight Pentecost, *Thy Kingdom Come: Tracing God's Kingdom Program and Covenant Promises throughout History* (Wheaton, IL: Victor Books, 1990), 62.

<sup>4</sup> David M. Howard, *An Introduction to the Old Testament Historical Books* (Chicago: Moody, 1993), 158–59.

<sup>5</sup> Eugene H. Merrill, "God's Plan for History Prior to Christ," in *Dispensationalism and the History of Redemption: A Developing and Diverse Tradition*, eds. D. Jeffrey Bingham and Glenn R. Kreider (Chicago: Moody, 2015), 131.

<sup>6</sup> Phil Logan and E. Ray Clendenen, "King, Kingship," in *Holman Illustrated Bible Dictionary*, eds. Chad Brand, Charles Draper, and Archile England (Nashville, TN: Holman Bible Publishers, 2003).

<sup>7</sup> Herbert W. Bateman IV, Darrell L. Bock, and Gordon H. Johnston, *Jesus the Messiah: Tracing the Promises, Expectations, and Coming of Israel's King* (Grand Rapids, MI: Kregel, 2012), 69.

<sup>8</sup> Paul R. Williamson, *Sealed with an Oath: Covenant in God's Unfolding Purpose* (Downers Grove, IL: InterVarsity, 2007), 129. Cf. Walter C. Kaiser, Jr., "The Davidic Promise and the Inclusion of the Gentiles (Amos 9:9–15 and Acts 15:13–18): A Test Passage for Theological Systems," *Journal of the Evangelical Theological Society* 20/2 (June 1977): 97–111.

<sup>9</sup> Robert L. Saucy, *The Case for Progressive Dispensationalism: The Interface Between Dispensational & Non-Dispensational Theology* (Grand Rapids, MI: Zondervan, 1993), 62.

<sup>10</sup> Thomas Schreiner, *The King in His Beauty: A Biblical Theology of the Old and New Testaments* (Grand Rapids, MI: Baker, 2013), 164.

<sup>11</sup> 中川健一「A-1-2 聖書入門『契約の民の巻』」ハーベスト聖書塾テキスト、16頁。

<sup>12</sup> Schreiner, 166.